

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	生涯学習課		
	係名	公民館係		
	記入者		電話(内線)	33-3191

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	公民館運営事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	42102 (総合計画掲載 ^ハ - ^ジ 119 ^ハ - ^ジ)	会計区分		一般会計	
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)	財源区分		市単独	
基本施策	4-2生涯を通じてともに学べる環境づくり(生涯学習・地域教育・青少年の健全育成)	予算科目		款 10 項 5 目 4	
施策	①自ら学ぶ機会の充実	予算書上の 事業名称		公民館運営事業	
施策内容	2市民講座の開設	事業名称		(予算書 174 ^ハ - ^ジ に掲載)	
(5) 事業期間	開始 昭和 50 年 4 月から 終了 年 月まで (力年)	(8) 事務分類		自治事務	
		根拠法令	教育基本法第12条, 社会教育法第5条三・六・七・十二, 第20条, 第22条		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	広く市民に対して	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)	市民それぞれのライフスタイルがあり, 健康で生き生きとした生活がおくれるため, 様々な分野の市民講座を開設することにより, 参加した者たちが, 学ぶ喜び, 学んだことを生かす喜び, 趣味として自分の生きがいを感じるように開設する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	公民館(市民)講座の開設 ①子育て講座 ②健康な身体づくり(体操・料理)講座 ③趣味の講座 ④教養講座 ⑤児童のための講座	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応			
子育て講座については, 申し込みが当初少ない講座でも, 実施しているうちにいっぱいになる講座が多い。趣味や教養の向上を目的とした講座や健康な身体づくりのための体操講座については, 女性の参加が高くなっている。参加者の少ない青年や男性向けの講座や, 四川地区での講座の充実を図る必要がある。また, これからの公民館をどうするかによって, 講座の実施が四川地区中心に進めるのかどうかを見直さなければならない。			

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳	事業内容	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)			
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	事業費						
	報償費	640	699				
	需用費	4	4				
	委託料	22	76				
	使用料及び賃借料						
	合計	666	779				
財源	国庫支出金 (千円)						
	県支出金 (千円)						
	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	666	779				
	合計 (千円)	666	779				
補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	講座開講数	目標値		20	20	20	20
		実績(見込)値	講座	24	20		
		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	講座参加者数	目標値	人	1,500	1,500	1,500	1,500
		実績(見込)値		1,139	1,500		
		達成率		75.9 %	100.0 %		
		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

生涯学習の拠点として、市民誰もが気軽に参加できるよう、世代や地域のニーズに合わせた講座を内容や場所、実施方法を含めて講座の改善を図る必要があるということだが、毎年他の市町村で好評の講座を実施したり、昨年は結城市の歴史を知る一つの講座として「結城の民話」という講座を実施などいろいろ考慮して様々な講座を実施している。「結城の民話」などは、親子で参加するなど定員以上の参加があった。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	社会教育法では、定期的な講座の開設が謳われおり、必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	社会教育法での定期的な講座の開設が謳われているほか、自主的な団体の活動は趣味による活動となってしまうため、広く市民の健康を考えた講座や社会に踏み出す一歩となる講座は自治体で取り組まなくてはならない。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	市民のニーズの把握と関心や興味を持つ講座の実施に向けた検討調査が必要。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	生涯学習指導員が、講師や関係機関と連携し企画、効率的にもコスト的にも実施されている。これからの公民館の在り方にもよるが、他の施設を利用することで費用が発生してくる。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	公民館活動に興味がある人や中高年の女性の参加が多い傾向がある。しかし、子育て関係の講座は、参加も高く誰もが参加できるなど公平である。
有効性	成果の向上	A	上がっている	子育て関係の講座や夏休みの企画もの等定着し、参加者から要望されている講座も多い。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	青少年向けや男性向けの講座の実施や土曜日の講座の実施など、年々講座自体も少しずつではあるが進歩している

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

なかなか難しいが、市民のニーズの高い講座の把握をした上で、講座にかかわる関係機関と連携を密にして、実施内容をよく検討しながら進めていく必要がある。今までも評判の良かった講座を実施し続けたり、参加者が少なくとも「結城の歴史・文化」を勉強するような講座や結城独自の講座に幅広い市民に参加してもらう工夫が必要である。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

どのような講座を受けてみたいか、そのニーズの把握をどう取っていけばよいのか？関係する機関で検討していく必要がある。若い男子が来るような講座や男性がもっと興味を持つような講座の開催、各四川地区での開催、小山市との交流事業(二年目を実施中)として魅力ある講座の開催をしていくための検討が必要である。これからの公民館の在り方にもよるが、公民館以外での講座の実施による部屋代等の使用料及び賃借料が必要になってくる。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	市民の誰もが、気軽に学習できるように、世代や地域のニーズに合わせた講座や事業を実施するため、内容や開催方法を検討していく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。